

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2020 年 3 月 5 日
報告者	滋賀県立大津商業高等学校 教諭 奥坂美紀
助成団体名 (所属団体名)	滋賀県立大津商業高等学校
団体住所	〒 520-0037 滋賀 <small>都道府県</small> 大津市御陵町 2 番 1 号
団体電話番号	077 — 524 — 4284
代表者 (助成対象者)	滋賀県立大津商業高等学校 校長 今井義尚
助成対象事業	大津商業高校生 課題研究「ビジネスインキュベーション講座」高校生と行く 思いやり旅行
事業（助成）期間	2019 年 4 月 8 日 ～ 2020 年 3 月 31 日
事業費総額	602,450 円
助成金総額	320,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

(1) 事業概要

大津商業高等学校 第3学年 授業「課題研究」において、普段一人でお出かけすることができない高齢者の方や体に障がいのある方を対象とした旅行を企画実施する。

「(株) どこでも介護」・「(株) JTB滋賀支店」に業務を一部委託し、共同で旅行を企画実施する。車いす実習および食事等の介助実習を事前に実施していただきサービスの提供だけでなく介助方法についても学習する。この旅行を通じて、高校生との交流で高齢者の方が今まで以上にお元気になっていただけるとともに高校生が主体となる地域密着型観光ビジネス事業として地域社会の発展に貢献することを目的としている。

(2) 成果目標

- ・高校生が県内の観光地を調査・研究し、高校生の視点で観光ビジネスを進めていく。
- ・高齢者、障がいのある方の目線で観光地等を調査し観光地のバリアフリー問題について考え、バリアフリー化に向けた取り組みを推進する。
- ・お客様との交流をとおして、相手を思いやる心とコミュニケーション力を高める。
- ・観光ビジネスを通じて、地域社会の活性化に貢献する。

(3) 事業スケジュール

2019年4月～旅行企画・観光地調査

8月 下見・チラシ配布および広報活動

9月 旅行準備・チラシ配布および広報活動

10月 旅行準備・事前車いす、介助実習

11月 旅行実施・校内発表会準備

2020年1月 校内発表会

次年度 旅行企画準備、以降毎年度、同上スケジュールとし継続

(4) 旅行報告

①プラン名 : 大津商業高校生が作った。瀬田川クルーズ介護ツアー

日時 : 令和元年11月2日(土) 8:30 ~ 17:00

プラン概要 : 唐崎焼き体験と瀬田川クルーズ船「一番丸」サンセットクルーズ
JR石山駅 集合 → 唐崎焼き体験 → 昼食 松喜屋
→ 石山寺港 瀬田川クルーズ → 浜大津港 解散

旅行参加者 : 9名(生徒13名)

費用 : 9,800円

共同企画 : (株) どこでも介護

後援 : 大津市

②プラン名 : 大津商業高校生と行く。秋の夕日に乾杯ツアー

日時 : 令和元年11月4日(月) 8:50 ~ 17:00

プラン概要 : マキノピックランド・セコイア並木散策、古民家「たらいち邸」
高校生とスイートポテト作り・フィールドワーク体験
JR大津駅・大津京駅集合 → マキノピックランド・昼食
→ 古民家たらいち邸 → JR大津京・大津駅 解散

旅行参加者 : 14名(生徒20名)

費用 : 8,500円

共同企画 : (株) JTB滋賀支店・(株) どこでも介護

後援 : 大津市

(5) 協力企業等

株式会社 どこでも介護 ・株式会社 JTB滋賀支店

レークウェスト観光株式会社 ・一棟貸し古民家宿”たらいち邸”

唐崎焼窯元・レストラン松喜屋・青嵐公民館

(6) 後援 : 大津市

3、事業成果

今年度は、(株) どこでも介護だけでなく、大津市の後援名義使用の承諾、JTB滋賀支店、大津ロータリークラブの協力など本旅行に対する理解が深まり、多くの方に認知していただくことができ、新規参加者も増加した。特に、今年度は大津市の唐橋焼き体験や瀬田川クルーズ船「一番丸」の活用など、地域企業の方々にご協力を得ることができた。また、高島市にある古民家「たらいち邸」など、新しいコンテンツを提供していただくことができた。

今年度は、本校生徒3年生25名が、2つの班に分かれ旅行を計画した。5月に旅行計画を立案し、プランニングオフィス Diggin! プランナーの 紀平健介氏を審査員に招き、プレゼンテーション大会を実施した。さらに、JTB滋賀支店 前川 壘 氏より、観光旅行事業の仕組みややりがいなどについて、講演していただいた。

6月には、「ディケアーセンター憩い」において、高齢者の方とのふれあい体験や介護実習を行い、介護に対する知識、技能とコミュニケーション力を高めた。

8月に現地下見を行い、食事・トイレ・観光地のバリアフリー状況など安全面について調査した。また、高齢者とのコミュニケーションを深めるため「ディケアーセンター憩い」の夏祭りの企画・運営にも参加した。9月から旅行プラン、価格設定、観光地の魅力など踏まえたチラシを作成し、介護施設や近隣商業施設等で配布した。さらに、大津市のケアマネージャー対象の説明会において、生徒によるプレゼンテーションを行い旅行の魅力の説明した。

旅行事前研修として、(株) どこでも介護の協力のもと、介護・車いす体験実習を行うとともに参加者のお体の状態や介助内容を共有した。

成果目標である、①高校生が県内の観光地を調査・研究し、高校生の視点で観光ビジネスを進めていく。②高齢者、障がいのある方の目線で観光地等を調査し観光地のバリアフリー問題について考え、バリアフリー化に向けた取り組みを推進する。③お客様との交流をとおして、相手を思いやる心とコミュニケーション力を高める。④観光ビジネスを通じて、地域社会の活性化に貢献する。について、概ね達成することができた。

参加者（高齢者の方）との交流では、相手の立場に立った介助を心がけ、積極的にコミュニケーションをとることができた。食事や移動の際は、バリアフリーの状態を確認しながら、安全面に気を配り旅行を進めることができた。特に、段差や坂道など状況に応じて複数人で車いすを補助するなど臨機応変に対応することができた。

旅行をとおして、地域社会や地域企業など地元の観光資源を再確認することができ、地域理解を深めることができた。

旅行後も参加者へのお礼の手紙や記念アルバムの作成、アンケート調査など生徒が主体となり取り組むことができた。参加者の方々から「ありがとう」「来年も楽しみにしている」等のお言葉をいただくことで生徒の達成感も高まり、誰かのために時間や労力を費やし事業を成し遂げることが働くことの意義であり、社会人として必要な力であることを学ぶことができた。

今回で4年目となる思いやり旅行ですが、講座を希望する生徒も増え、昨年は17名が今年度は25名となり年々増加している。生徒の多くは初め受け身であるが、徐々に自分達で意見を出し合い、主体的に責任感を持って取り組むことができた。旅行をとおして、相手を思いやる心や感謝の心を育むことができた。次年度もお客様に満足していただける旅行を企画・実施していく予定である。

4、今後の課題など

介護が必要な高齢者の場合、ツアー形式の旅行は安全面等課題が多く、実際に介護旅行ツアーも少ない。また、個人旅行の場合、旅行代金等も高額となるため気軽に参加することが難しい。高齢者の方にとって安価な旅行を企画・運営するためには、参加料だけでなく、助成金等の補助金が一定必要となる。クラウドファンディング等で事業資金を調達するなど資金面での工夫が課題となる。

安全面については、車いす実習等実施しているが、食事やトイレなどの介助実習に必要な資格がなく、介助や看護など外部委託する必要がある。また、高校生だけでは、参加者や参加者の家族の不安を払拭できないため、介護ボランティアや学生ボランティアなどの協力も必要となる。

また、高齢者の移動手段としてリフト付き観光バスの利用を計画しているが、県内のバス会社に2台しかなく利用料金も通常の観光バスよりも高額となる。旅行シーズン中は特に高額となるため、利用することが難しい。今後も高校生の企画旅行等でリフト付き観光バスの必要性をアピールしバス会社の保有率を上げ、利用料金も引き下げられるようなPR活動を続ける。

観光地においては、バリアフリーが進んでいない所も多く、車いすでは行けないところも多い。旅行をとおして、観光地のバリアフリー化に向けた整備が進むようPRしていく。観光地や伝統産業など滋賀県の魅力や大津市の魅力を県内外に発信するとともに介護旅行の必要性や重要性を社会全体にPRし、高齢者が元気に生活できる街作りを高校生が主体となり取り組む。